

鳥取県種雄牛案内

久福也

大山雲

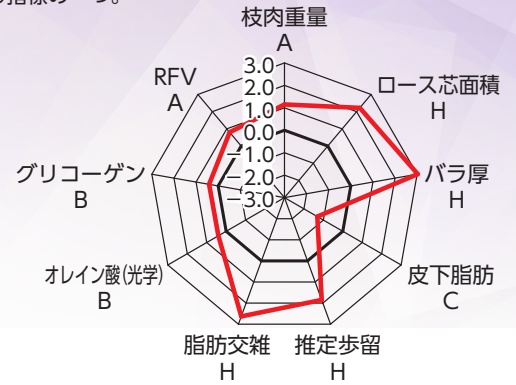
菊花久

智頭白鵬



育種価（令和8年1月現在）について

- 「育種価」とは、血統的繋がりとその個体と血縁関係にある枝肉成績をもとに、親牛から子牛に伝えられる能力（遺伝的能力）の度合いを数値で表したものです。
- 「検定済種雄牛」について、「推定育種価」（産子の肥育成績から推定）を掲載しています。
 - 1) オレイン酸：オリーブオイルの主成分であり、脂肪のおいしさの指標の一つ（口溶けに関与）。
 - 2) グリコーゲン：動物デンプンで、赤身のおいしさの指標の一つ（うまみなどに関与）。
 - 3) RFV：粗脂肪含量相対値。各BMS No. における胸最長筋肉内の粗脂肪含量の多寡を評価する指標の一つ。値が小さいと脂肪交雑形状は小ザシ傾向。
- 「育種価」は、ゼロ「0」（平均）を基点にしたプラス「+」数値、マイナス「-」数値として表現し、数値がプラス側に大きいほど良い（好ましい）が、皮下脂肪厚についてはマイナス側に大きいほど良い（薄い）ことを表しています。
- 基幹種雄牛は、鳥取県内で育種価評価された雌牛の平均値（0）に比べ、どの程度優れているのかを示すもの（標準偏差 σ ）をレーダーチャート化しています。鳥取県内での相対的な位置づけを表しており、グラフの線が外側にいくほど好ましいことを示しています。



● 各枝肉形質における「H」「A」「B」「C」標記の推定育種価基準値：県内で生産された雌牛（1,863頭）の推定育種価値から算出

R8.1現在

区分	枝肉重量 kg	ロース芯面積 cm ²	バラ厚 cm	皮下脂肪厚 cm	推定歩留	脂肪交雑	オレイン酸(光学) ^{※1} %	グリコーゲン ^{※2}	RFV (屠畜年補正) ^{※3}
「H」上位1/10以上	71.17	25.26	1.58	-1.03	4.30	3.01	1.67	0.58	0.40
「A」上位1/4以上	55.19	21.26	1.28	-0.80	3.65	2.68	0.81	0.21	0.58
「B」平均以上	37.65	16.86	0.96	-0.55	2.94	2.31	-0.13	-0.18	0.77
「C」平均未満									

※1 オレイン酸：食肉脂肪測定装置で測定した筋間脂肪におけるオレイン酸の割合

※2 グリコーゲン：鳥取県畜産試験場が比色法で測定した胸最長筋肉内におけるグリコーゲン含有（水分補正值）の値

※3 RFV（粗脂肪含量相対値）：鳥取県畜産試験場が理化学分析により胸最長筋肉内の粗脂肪含量を測定し次の式によって算出
(粗脂肪含量 - BMS No.別の粗脂肪含量の平均値) / BMS No.別の粗脂肪含量の標準偏差



遺伝子型検査結果の表記について

- 掲載している牛（過去の繋養種雄牛は除く）は、全て以下の遺伝子型検査を実施しています。
- 遺伝病の欄には、以下の遺伝子型検査が全て正常の場合は「フリー」、保因があった場合は略号を表記しています。

● 遺伝子型検査一覧

※【 】は略号。

【B3】バンド3欠損症	【MCSU】モリブデン補酵素欠損症
【F13】血液凝固第13因子欠損症	【IARS】IARS異常症（1型子牛虚弱症候群）
【CL16】クローディン16欠損症	【FMA】前肢帯筋異常症
【CHS1】チェデアックヒガシ症候群	【BAS1】バーター症候群1型
【MOD】眼球形成異常症	【MSHR】メラニン細胞刺激ホルモン受容体欠損症
【SD】骨格粗大症	



鳥取県が行っているゲノミック評価について（令和8年1月現在）

- 現在、鳥取県ではGBLUP法でゲノミック評価を行っています。
- 他の評価値（全国和牛登録協会の育種価、家畜改良事業団のゲノミック評価）とは直接比較できません。
- 枝肉6形質に加え、オレイン酸、グリコーゲン、RFVのゲノミック評価値を算出しています。
- また、鳥取県内で生産された雌牛集団のゲノミック評価値を基準として、「H」「A」「B」「C」の表示をしています。
- 「現場後代検定中種雄牛」、「育成牛」について、「ゲノミック評価」を掲載しています。

●各枝肉形質における「H」「A」「B」「C」標記のゲノミック評価基準値：県内で生産された雌牛（4,980頭）のゲノミック評価値から算出

R8.1現在

区 分	枝肉重量 kg	ロース芯面積 cm ²	バラ厚 cm	皮下脂肪厚 cm	推定歩留	脂肪交雑	オレイン酸(光学) ^{※1} %	グリコーゲン ^{※2}	RFV (屠畜年補正) ^{※3}
「H」上位1/10以上	47.70	13.61	0.75	-0.60	2.04	1.41	1.25	0.82	-0.36
「A」上位1/4以上	29.05	9.92	0.46	-0.36	1.47	1.06	0.42	0.42	-0.15
「B」平均以上	8.33	5.81	0.13	-0.10	0.84	0.67	-0.50	-0.03	0.09
「C」平均未満									



ゲノミック評価とは

- 本牛の遺伝子（ゲノム）から産肉能力の予測値（評価値）を示したものです。
- 具体的には、ゲノム上に多数存在する遺伝子の型の違い（SNP：スニップ）を検査します。
- そのSNPの型の違いと訓練群データ⁴⁾によりゲノミック評価値を算出します。

4) 訓練群データ：枝肉成績とSNP情報を対に持つ肥育牛のデータ。訓練群データが多くなれば、評価値の精度が高くなります。

●各枝肉形質における鳥取県訓練群数と鳥取県訓練群の平均値

R8.1現在

区 分	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪厚	推定歩留	脂肪交雑	オレイン酸(光学) ^{※1}	グリコーゲン ^{※2}	RFV (屠畜年補正) ^{※3}
鳥取県訓練群数	16,885頭	16,885頭	16,885頭	16,885頭	16,885頭	16,885頭	9,067頭	7,889頭	7,632頭
鳥取県訓練群平均値	476.97kg	60.82cm ²	8.13cm	2.60cm	74.44%	2.04	53.75%	3.43	0.01

